

分野(3)

ぜん息発症予防・健康回復のための知識の体系化に関する調査研究

研究課題名：『喘息死ゼロ』実現に向けた、東濃地区における
患者吸入指導一貫体制の整備とその効果検討

調査研究代表者氏名：大林浩幸

評価コメント

- ・地域システムとしては、ほぼ完成したものと評価する。
- ・実効性の高いプログラムを短期間に立ち上げ成果を上げたことは評価できる。
- ・ぜん息の吸入指導に地域全体で取り組み、薬剤師に役割を与えて、教育・認定システムを確立しており、成果は上がっている。今後は利用者からの評価を行って欲しい。
- ・医薬連携、薬業連携を通して、吸入指導がうまくできるようにされた点は高く評価したい。しかし、これを東濃地区だけでなく、広く普及させることに意義があるわけで、そのためには、どのようなことが必要なのかを検討してもらいたい。たとえば、簡便な連携のためのマニュアルを作るなどである。
- ・地域の薬剤師が積極的に吸入療法指導に当たる仕組みが構築できたことが、評価される。このことにより、どのような変革がもたらされたかを明確にすると良い。ネブライザーを用いた吸入指導も含めて、小児ぜん息患者・保護者に対する教育体制に発展することが望まれる。
- ・今後認定薬剤師の増加効果を、何を持って計測してゆくかを決めておくことが望ましい。既に東濃地区のぜん息死減少は知られており、その他の成績、例えば患者の指導施行前後のQOLの改善等についての検討が必要であろう。また、指導しにくい患者さん(高齢者や小児)についての工夫等についても報告いただければ幸いである。論文化の予定である由、今後に期待したい。
- ・薬剤師を教育して、薬剤師を介して正しい吸入療法を患者に教えるという試みは、現在の医療制度の下では最も現実的で実行可能な方法である。問題は薬剤師に認定証を発行する場合、誰によってそれがオーソライズされるかである。学会や薬剤師会の承認・協力を得て、このようなシステムを全国レベルに展開できるようなモデルを構築することが望まれる。
- ・認定吸入指導薬剤師の構想と実施は、他地区への広がりも期待したいのでロールモデルとして活用して方向を定めるべきである。